

「中央アジア視察1」メルマガ54号 2005年11月15日

みなさんこんにちは!吉良州司です。

前回のメルマガでお知らせしましたように、衆議院の外務委員会の視察団の一員としてトルコ、ウクライナ、キルギス、ロシアを訪問してきました。議員になって初めての公式訪問の旅でしたが、今後、数回に亘って、その視察報告をさせて戴きます。



まず、詳細に入る前に今回の視察で最も印象的だったことを報告します。それはウクライナの首都キエフにおける日本企業の駐在員の方々と懇親会のことです。

私の隣に座られた方が三菱商事のキエフ事務所長・足立純一氏で、お聞きすると、大分県・旧大野郡出身とおっしゃるではないですか!そして、何と!大分舞鶴16回生の大先輩だったのです!こんなところで、郷土大分の先輩にお会いし、隣り合わせになるとは!思いも掛けない感動的な出会いでした。まだまだ発展途上にあるウクライナの地で商社やメーカーの方々が

苦勞されながら、会社の為、日本の為、そして日本で待っている家族の為に、日夜、頑張っている姿を見て、久しぶりに商社マンの血が騒ぎましたが、郷土の大先輩が彼の地でも活躍されていると知り、偶然の出会いを神様に感謝しながら、感激に浸っておりました。

足立先輩からは早々に激励のメールを送って戴き、私もこの運命的な出会いに対する感激と感謝のメールを返信しましたが、何かしら新たな勇気が沸いてきました。

また、キエフでは元日商岩井の後輩と出会うことができ、モスクワから日本への帰国便では、やはり日商岩井時代に大変お世話になった先輩社員とも再会することができました。

次回からのメルマガは、中央アジアに行くきっかけとなった、外務委員会及び経済産業委員会での質問の概要と詳細、そして、訪問各地での出来事、印象、エピソードなどを紹介、報告させてもらうつもりですが、以下では、今回の視察の日程概要をご紹介します。



ボスポラス海峡を背景に、トプカプ宮殿にて(一番右が吉良州司)



立っている吉良州司の左に居るのが、キエフで感動的な出会いをした大分舞鶴高校19回生の大先輩である、足立純一氏(現三菱商事(株)キエフ所長)

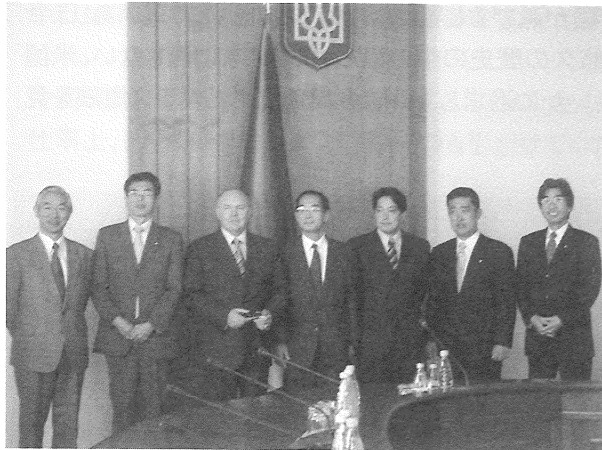
11月4日(金)	トルコ航空にて成田空港発 トルコ・イスタンブール着 *イスタンブールはウクライナや中央アジア、コーカサス諸国への空の玄関の役割を担っています。
11月5日(土)	休日の為、市内視察 総領事主催昼食会 日本の円借款による地下鉄整備計画の現場及び第2ボスポラス大橋視察 中村在アンカラJICA(国際協力機構)事務所長及び日本企業駐在員との懇談
11月6日(日)	トルコ航空にてイスタンブール発 ウクライナ・キエフ着 市内視察 大使主催夕食会
11月7日(月)	オスタシュ最高会議外務副委員長との会談 スタシェフスキー第一副首相との会談 タラシューク外相との会談 団主催日本企業商工会関係者との夕食懇談会
11月8日(火)	トルコ航空にてキエフ発 イスタンブール着(乗り継ぎ) トルコ航空にてイスタンブール発
11月9日(水)	キルギス・ビシュケク(首都)着 ジェクシエンクロフ外相との会談(於:外務省) テケバエフ議会議長との会談(於:議会) クロフ首相との会談(於:首相府) テケバエフ議長主催夕食会
11月10日(木)	バキエフ大統領との会談(於:大統領府) 大使館主催在留邦人との昼食会 議会国際問題委員会との会談(於:議会) 市内視察 日本センター視察及びアラアルチャ渓谷散策 原田委員長主催夕食会
11月11日(金)	ロシア航空にてビシュケク発 モスクワ着 市内視察 野村大使主催ヴヌコフ露外務省第一アジア局長との意見交換兼昼食会(於:大使公邸) ロシア航空にてモスクワ発
11月12日(日)	成田着



左から2番目が、日商岩井時代の後輩の久保哲也氏(現双日キエフ支店長・キエフ商工会会長)

「中央アジア視察3 ウクライナ編」メルマガ56号 2005年11月20日

みなさんこんにちは!吉良州司です。今日は中央アジア視察の第3回目の報告、ウクライナ編です。



スタシェフスキー第一副首相との記念撮影
(左から3人目が第一副首相。一番右が筆者吉良州司)

私は商社時代、共産主義・社会主義諸国にはほとんど出張したことがありませんでしたので、ウクライナは勿論、(空港での乗換えを除く)ロシアや他のCIS諸国は初めての訪問になります。1991年にソ連が崩壊して、そしてウクライナが独立して早や15年、市場経済化の陽の効果と陰の効果に一喜一憂しながらも確実に自由と民主主義が根付きつつあると聞くウクライナの首都 キエフの空港に降り立ちました。

ウクライナは人口約4800万人、国土面積は60万平方km(日本の約1.6倍)で、その大半は黒土に被われた肥沃な平野地帯で、「欧州の穀倉地帯」と呼ばれている農業国です。民族的にはウクライナ人が73%、ロシア人22%、その他5%で、主な宗教はウクライナ正教です。

歴史的には、紀元前6世紀頃、イラン系騎馬民族スキタイの国家が栄えた(その栄華の痕跡を博物館に陳列された金の装飾品で垣間見ることができました)ことで有名ですが、現在のウクライナの原型は北欧からやってきたヴァイキングのリュウリユックの一族がキエフに打ち立てた「キエフ公国」です。キエフ公国は13世紀にモンゴル軍によって崩壊し(しかし、現在のモスクワ地域に後退することで、現在のロシアの原型になった)その後はリトアニア大公国、ポーランド大公国の支配下に入り、更に17世紀には実質的にロシアの支配下に置かれました。ロシア革命後、1919年にウクライナ社会主義共和国が成立、1922年にはソ連邦の構成共和国となりました。そし

11月6日(日)早朝にイスタンブールを出発。イスタンブールからキエフへの航空路は黒海の西岸に沿って飛んでいますので、飛行機の中からブルガリア、ルーマニアの黒海沿岸部を見ることができました。見渡す限りの平原で、大きな農地が広がっていました。「ここでブルガリア・ヨーグルトを造っているのか!」「これはすごい!農業にはもってこいの土地柄だなあ!」などと考えていたら、あっという間に(実際は約2時間)ウクライナの首都キエフに到着しました。



共産党記念日に反ユーシチェンコのデモ行進に遭遇。参加者たちは口々に「ユーシチェンコのクソくらえ!」と叫び、首相府にオレンジ革命の象徴である「オレンジ」を投げ込んでいた。吉良も危うくオレンジ投柁をかくぐりながら首相府へ。



投柁をくぐり抜け、首相府からデモ隊を写す。平家の軍勢のように赤い旗を掲げたデモ隊が、首相府の向こう側の丘にもたくさんいる。



首相府前でデモ行進の様子を取材するマスコミ関係者

て、上述しましたように、1991年のソ連崩壊によりウクライナ共和国として独立を果たし現在に至っています。

経済的にはまだまだ発展途上にあり、一人当たりのGDPは970米ドルしかありません。農業が中心ですが、旧ソ連時代には連邦の分業体制の中で、鉄鋼、造船、宇宙航空機産業等の軍需産業生産を担っていたので、今でも鉄鋼業、宇宙航空産業は主力産業です。

さて、今回の衆議院外務委員会視察団の大きな目的のひとつが、ウクライナの現在の大統領であるユーシチェンコが中道・右派グループである「我々のウクライナ」を中心に率いて成就させた、いわゆる「オレンジ革命」の経過と現状の視察です。前政権やロシアまでもが露骨に選挙干渉する中で大統領選挙(ロシアとの関係を重視するヤヌーコヴィッチ前首相と西側を志向するユーシチェンコ元首相の事実上の一騎打ち)の不正を糾弾し、大統領決戦投票をやり直しさせ、ついにはユーシチェンコ元首相が当選しました。

この一連の抗議運動では国民がオレンジ色のシンボルカラーを身につけて運動に参加し、血を流さず、実質的には民主的な国民運動によって政権交代を実現させたことから「オレンジ革命」と呼ばれています。



ソ連時代もこうであつたろうと思われる重厚な警備隊

今回の公式訪問は、タラシューク外務大臣、スタシェフスキー第一副首相、オスタシュ国会外務副委員長の3人の政権指導者との面談でしたが、オレンジ革命を成し遂げた自信と情熱に満ち溢れており、「2015年までにEUへの加盟を果たす」という目標に向かって特に経済的自立、発展の為の環境整備に力を入れているようでした。

一連の会談の中で象徴的だったのは、ウクライナが日本を同志扱っているということです。日本は広島、長崎の原爆被爆国、そしてウクライナはチェルノブイリ原発事故の被爆国だという共通性によるものです。日本も同じ被爆国として、同原発事故の後、多大な医療支援、人道支援を行ってきました。そのことに対してウクライナから何回も感謝の弁が述べられました。

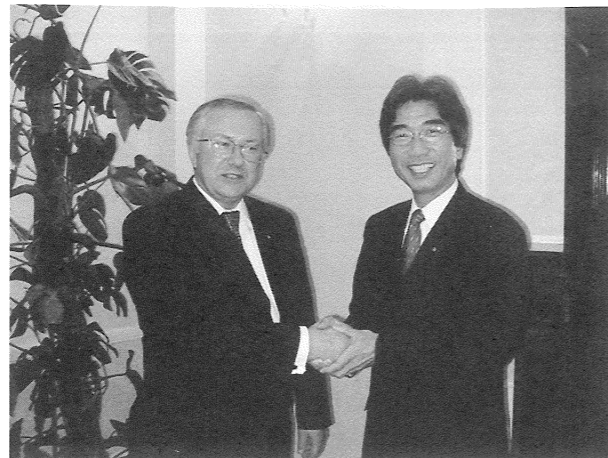
そして、ウクライナが世界に誇るべきことはソ連時代の核兵器を全面撤廃したことです。この毅然とした国家意思とその実行力に対して敬意を表したい



スタシェフスキー第一副首相との会談の様子(首相府にて)



ウクライナ外務省にて、タラシューク外相との会談
(左から2番目が筆者吉良州司)



タラシューク外相との会談後、同外相と固い握手

と思います。

面白かったのは、首相府に向かっていたところ、その日は共産党の革命記念日ということで、赤い旗をもった大勢のデモ行進に遭遇したことです。通訳の話ですと、みなさん「ユーシチェンコの野郎!クソくらえ!」と叫んでいるとのことでした。首相府に入ろうとするとデモの人達が首相府を取り囲み、外から果物の「オレンジ」を中に投げ込んでいるのです。そのオレンジの投石ならぬ投柑の中をかいくぐって首相府に入りました。

あと、特筆すべきは、やはり外交は現実直視の中のバランス感覚が要求されるということが、改めて確認できたことです。ユーシチェンコ大統領は「ロシアではなく、西側を向くんだ!」とって大統領になった政治家で、先述のように「EU加盟」「西側重視」の基本姿勢は変わらないものの、エネルギーの大半をロシアに依存し、ロシア系国民を始め、ロシア志向の強い国民の意向も意識してか、政権樹立後は真っ先にロシアを訪問し、「ロシアは永遠の戦略的パートナー」と持ち上げ、プーチン・ロシア大統領がウクライナを訪問した際に「プーチン・ユーシチェンコ委員会」を発足させてロシアとの関係改善・強化を図るなど、なかなかしたたかでした。

現在、国営製鉄所の民営化が進行中、また近々、国営電話会社が民営化されるなど、経済の自由化、より進んだ市場経済化が推進されるとおもいますが、今後、投資法制・税制の整備が進む中で、潜在力の極めて高い国ですから、是非、日本からも投資をしてもらいたいと思っています。



自由を求めユーシチェンコを支持する人々10万人が集ったといわれる独立広場。ここからオレンジ革命が始まり、また成就した。そのモニュメントの前で。



独立広場全景



ウクライナ正教寺院の前で。寺院の階段では、結婚式を楽しむ人々が…。